

保育体験を通して幼児の発達の特徴を知ろう

家庭 家庭基礎 第1学年

石川県立金沢伏見高等学校・教諭

1 事例の概要

本校は人間福祉コースを持ち、将来は保育士や幼稚園教諭になることを希望する生徒も多い。しかし、事前に行った意識調査では幼児に興味・関心がないと答えた生徒が31%、幼児の気持ちがわからないと答えた生徒も77%いる。少子化が進み、児童虐待や育児放棄などが多発している中、子どもについて理解し、乳幼児に適切に対応できる力を育むことはとても大切である。

そこで、実際に子どもたちと関わる保育体験活動を通して、幼児への興味・関心を高め、その後、活動時の様子をグループで話し合い、まとめと発表をすることによって、より深く幼児の発達の特徴を理解させたいと考えた。さらに、この学習を通して生徒の自己理解が深まり、進路選択の一助になることを期待した。

2 実践内容

(1) 単元の目標

乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育及び子どもの福祉について理解させ、子どもを生き育てることの意義を考えさせるとともに、子どもの健全な発達のために親や家族及び社会の果たす役割が重要であることを認識させる。

(2) 指導上の工夫点（視点）

① 保育体験の事前準備における配慮

- ・事前幼児に対する意識調査を行い、園児感情がよい生徒とよい生徒を同じグループにしたりする等の配慮をする。
- ・保育介護体験活動賠償責任保険に加入させ、幼児の安全を充分考慮した交流をさせる。

② 学習定着のための工夫

観察項目の提示 実習記録をまとめる時の観察項目を、体験活動前に提示しておく。

体験直後の記録作成 実習記録とアンケートを体験直後に記入させる。

メディアの活用 デジタルカメラ・デジタルビデオで実習の様子を撮影させる。

グループ活動による振り返り 写真や映像を活用し、グループでスライドにまとめる作業や発表を通して、より深く幼児の発達の特徴を理解させる。

自己評価・相互評価 生徒同士の相互評価を行うことにより、さらに幼児の発達の特徴を理解させる。

保育体験活動やグループ活動の自己評価と相互評価の項目を事前に知らせておく。

B-1 実習記録

B-2 評価項目



3 指導の実際

題 材	時数	学習内容・ねらい	教 材 等
① なぜ保育 を学ぶか	1	ヒトが社会的な人間になるためには環境と教育が重要である。親になるためには、多くのことを学習する必要があることを知る。	・アヴェロンの野生児 ・狼に育てられた子 ・「ジーニー」
② 子どもの 発達	3	生命の尊さと母体の健康管理の大切さを学ぶ。乳幼児の心身の発育、発達の特徴を知り、人間の一生における乳幼児期の重要性を理解する。	・ビデオ「生命の誕生」 ・ビデオ「初めての冒険」 ・図表やプリント・保育人形
③ 親の役割 と保育	3	乳幼児期における、親（子どもを保護する特定の人）との関わり方が子どもの人間形成に重要であることを理解する。児童虐待等を取り上げ、その原因と周囲の支援や社会のあり方をグループで考える。	・「動物の子育て、人の子育て」 ・デズモンド・モリスの考え ・ビデオ「密林にチンパンジーの心をみつめた」「脳と心」 ・児童虐待の新聞記事
④ 保育体験	3	実習の目的、ねらい等をグループで考える。子どもと関わることによって、乳幼児の発達の様子を理解する。記憶を定着させるために、写真を撮る。	・保育園・幼稚園での交流 ・活動の様子の記録 ・記録ノート
⑤ 体験の記 録作成	2	コンピュータを使って、自分達が交流した子ども達の記録を作成し、より幼児の特徴を認識する。	・写真と記録ノート ・プレゼンテーションソフト
⑥ 保育体験 の発表と まとめ	2	皆の前で発表することで、認識を深める。自分たちや他の班の発表から、乳幼児の発達の特徴を知り、より深く乳幼児の発達の様子を理解する。	・発表用資料 ・自己評価表、相互評価表

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 保育体験活動による効果

最初「行きたくない」と嫌々参加した男子生徒が、体育館で5歳児を肩車して笑顔で走り回っていた。子どもが嫌いと言った女子生徒も3歳児を抱っこする経験を通して「子どもってかわいい」と意識が変化している。そして、体験活動後には「いい経験になった。また、このような体験をしたい」と感想を書く生徒が多くみられた。事前の準備は大変であるが続けていきたい活動である。

(2) 学習定着のための工夫

授業後に行った意識調査では、幼児に対する興味・関心があると答えた生徒が89%に、幼児の気持ちがわかると答えた生徒が53%に増え、幼児理解が深まることがわかった。また、保育体験活動後とグループ発表後の意識調査を比較すると、それぞれの項目について肯定的割合が増えていることから、振り返りの活動を行うことにより、さらに単元の目標を定着させることができたと考える。

D-1 生徒の意識